

2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 15 日作成)

| | | |
|------------------------------|---|--------------------------------|
| 小委員会名 | 容器構造小委員会 | 主 査 名：内藤 幸雄 就任年月：2006 年 4 月 |
| 所属本委員会 (所属運営委員会) | 構造委員会 | 委員長名：和田 章 |
| 設 置 期 間 | 2006 年 4 月 ~ 2008 年 3 月 | |
| 設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き) | <ul style="list-style-type: none"> ・大型石油タンクの地震時スロッシング用の設計スペクトルを定める。 ・サイロ払出し時の内容物による荷重の割増係数、局所荷重を定める。 ・容器構造を対象とした、風荷重評価法を定めるための風洞実験を実施し、またパラスタ結果から地震時相互作用の評価法を定める。 | |
| 委員構成 (委員名(所属)) | 委員公募の有無：下記 WG にて実施。応募者は無し。 内藤 幸雄(鹿島) 小林 信之(青学大) 廣瀬 仁志(トーヨーカネツ) 秋山 宏(日大) 植松 康(東北大) 大越 俊夫(日本設計) 桑村 仁(東大) 小山 実(大成) 柴田 耕一(日大) 西口 英夫(東電) 土方 勝一郎(東電) 森 廣明(JFE) 山田 大彦(東北大) 山中 豊(ブリジストン) 吉田 順(清水) | |
| 設置 WG (WG 名：目的) | 容器構造の地震荷重・応答評価 WG：サイロの内容物の変形特性が地震荷重に及ぼす影響、2 方向入力がスロッシングに及ぼす影響、等を検討する。 | |
| 2006 年度予算 | 90,000 円 | ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス： |

| 項 目 | 自己評価 |
|--------------------------------|---|
| 委員会開催数 | 6 回(年度内計画を含む) |
| 刊行物 (シンポジウム資料等は 除く) | |
| 講習会 | |
| 催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等) | |
| 大会研究集会 | |
| 対外的意見表明・パブリックコメント等 | |
| 目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係) | 1．スロッシングスペクトル：200kine 一定でほぼ収束しつつある。 2．サイロ払出し時荷重：割増係数はほぼ収束。局所荷重は終盤。 3．相互作用効果反映法決まった。また風洞実験を実施した。 |
| 委員会活動の問題点・課題 | 全体に少しずつ計画より遅れる傾向がある。来年度は最終年度であり、もう少しスピードアップしたい。 |